

大阪ごみを考える通信

NPO 法人 大阪ごみを考える会

<http://osaka-gomi.sakura.ne.jp/>

【連絡先】吹田市江坂町 4-23-7-309 水川方

TEL/FAX (06) 6338-3908

【郵便口座】00960-9-251431

2023年度 NO. 1 2023.5.31

目 次

1. 太陽光発電予算 27 百万→38 百万に！

東大阪市のごみ焼却による売電収入が 7 億円もあることに注目し、この収益を、市民が自宅に太陽光発電炉を据え付ける際の補助金として使えるように「ごみを考える市民の会」が市に働きかけた。その顛末をレポートする。

2. 吹田市内のルール違反のごみ対策

吹田市内に住む A さんの地域で、近隣住民が事業系の大型ごみや小型複雑ごみなどをごみ集積場に出している。当会に相談があったので事業課や破碎選別工場に問い合わせたことなどを報告する。市議会へも働きかけて議員の協力も得られた。大型ごみを無料でいくつでも出せる現状を改善していくことが、解決策の一つだと思うのだが。

3. 関本さんのコラム 「ヤマノススメ」金剛山編⑥

金剛山ではこの時期、種類の違うアジサイが楽しめるそうです。温暖化の影響は金剛山でも感じられて、花の開花期が早くなったり、紅葉が遅れ気味になったり、年間を通して山登りをし、定点観測をしていると変化に敏感になってくると言っておられます。

町に住む私たちは変化に気が付いた時には「時すでに遅し」ということのないよう、感覚を鋭くしておかなければならないのでしょう。

4. 加藤さんのコラム 「イスラムのボランティア」

イスラム教では喜捨することが義務になっているといえます。喜捨するほうはごく自然に、もらう方も礼を言わないのが普通。富める者は困っている人たち食べ物を提供するのが当たり前なのがイスラム社会。日本には「もったいない」という精神が薄れてきたのか、売れ残りや食べ残しなどの食品ロス量が 2020 年で 522 万トン（家庭系＋事業系）もあります。420 万トンの食糧があれば、世界全体で困っている人へ援助できる量なのに・・・です。

太陽光発電予算 27 百万→38 百万に！

はじめに

東大阪のごみを考える市民の会は、東大阪都市施設組合の焼却炉の発電効率が 26.3%と日本一で、年間の売電収入が 9 億円／年（うち東大阪市分が 7 億円）であることを知って、東大阪市のこのうち 1 億円を太陽光発電施設を設置したい市民への補助金として欲しい！と粘り強く訴えていましたが、市当局はこの願いを受け入れてくれ、昨年度は 2,680 万円であった補助金が令和 5 年度は 3,810 万円になりました！ここでは、1 年の活動でこれだけの成果を挙げることができた原因を考えてみます。

1. 会の特長

この会については、2022 年 3 月発行の会報 NO.6 で紹介していますが、特長は以下の 4 点です。

- ① 35 年の歴史がある。
- ② 結成に市職員・市会議員が関与し、現在も例会に出席している。
- ③ 市の機構及び制度改革に寄与できる活動をしてきた。
- ④ 会員に市が作った審議会や協議会の委員になる人がいる。

私は一昨年 11 月頃からこの会の例会に出席していますが、びっくりしたのは現役の市会議員が 2 人も参加している！ことでした。理解はしてくれる議員がいても、例会に毎回出席し「市民と学ぶ」、「市民から学ぶ」ことをポリシーにしている議員は知りません。

2. 2つの会議で訴える

市民が行政の施策に意見を言うばあいには、機構的には議会に訴えることになり、「陳情書＝要望書」や「請願書」を提出することになります。この二つを検索で改めて調べると、「陳情書」は文字通り要望を「陳情書」にして議会に提出するだけですが、議会が取り上げてくれる保証は必ずしもありません。一方「請願」は憲法で保障された「請願権」に基づくので議会は必ず取り上げなければなりません。ただ議員の「紹介」が義務付けられているので、賛同議員を探さねばなりません。

でも東大阪の場合議員が会員でもあるので、このどちらも不要になり、彼は自分の言葉で議会で訴え、当局に「1 億円を使え」と提案することができたのです！当局が現実を受け入れようとする、一部事務組合と東大阪市は別の機構だからややこしくなるので、「研究課題にしたい」との回答しか得られませんでした。

そこで次の手を皆で考えたところ、東大阪市環境審議会の委員をしている会員が、審議会での議論はほぼ終わり、一般市民にパブコメを求めていると教えてくれました。通例はパブコメを書いても、単に「貴重な意見があった」という類のことしか書いてくれないので提出する人は極少ないのですが、答申案の中に温暖化防止策施策として「自然エネルギーの活用を導入推進する」というフレーズがあるのを見つけ、この具体的推進策として「一億円を太陽光発電設置補助金に使うことは意義がある」というパブコメとそれを裏付ける会員作成の資料を事務局に提出することになり、その文章を書いてみるという人が現れたのです！

この会員は「東大阪市地球温暖化対策実行計画協議会」の委員になっているので、この会議で発言できる機会を見つけ、そこで言うことにしたのです。

このように行政の委員になっていると発言機会があるのですが、たいていは“熱い思い”を御願ひするに留まってしまいます。意味ある事を言うには事前に十分の学習をして自前の資料を作り、それを短時

間でまとめる練習を必ずする必要があることがわかります。

3. 訴えた効果

2月末に開かれた協議会の「議事要旨」等を後日見ることができます。先ず第1に配布資料として「参考資料1：計画改定に係るパブコメ実施結果」がありました！ただこれは“参考”資料だから、会員が配布を依頼し事務局がOKして初めて載せて貰えるのです！

次に「議事要旨」を見ると、会長が最後に「その他意見はありませんか？」と尋ねています。会員の意見は主題との関連性が薄いので「その他」扱いになるのです。

そこで会員が簡潔に意見を述べたところ、なんと副会長が「ご意見感謝する云々」と言ってくれ、続いて会長が「大東市のシニア大学の卒業式に出席するが、市長も出席されるから彼に言っておく。」また一委員が「中小企業にも補助金を」と言ってくれました。

会議終了後、事務局職員が、立ち話で、“議員も言っていましたよ”と言ってくれたとのことでした。

4. 増えた予算

この効果は、令和5年度「再生可能エネルギー等促進事業」に以下のように反映されました。

- (ア) 令和4年度2,680万円であったのが、3,810万円と1,130万円増えた。
- (イ) 内訳は家庭向け太陽光発電補助事業が3千10万円と330万円増
- (ウ) 事業者向け補助費800万円が新設された。
- (エ) 動物指導センターと言って、捨てられた犬や猫を預かり保護する施設の改造にあたり、太陽光発電装置やその他の省エネ設備を付加できるか否かを調べる「改修工事設計委託料」790万円が新設された。

一件当たりの補助額の上限は8万円で、1kwあたり2万円の補助だから、4kwを設置すると8万円もらえるわけで、令和4年度は140件でした。太陽光発電装置以外の蓄電池設置などにも補助されるからです。

(森住 明弘記)

無料セミナー

未来をつくる太陽光発電！
もっと吹田で増やすには？

どなたでも
参加できます
申し込み不要

とき 2023年8月5日(土) 10:00~11:50 (開場9:30)

ところ 千里山コミュニティセンター 多目的ホール (阪急千里山すぐ)

講師 和田 武さん (和歌山大学客員教授 自然エネルギー市民の会代表)

講演タイトル 「市民・地域が取り組む太陽光発電

～気候危機を防止できる社会を目指して～

主催 アジェンダ21 すいた エネルギー部会

気候危機が進行し、未来の世代のためにも、一刻も早くCO₂を減らさなければいけません。市民が太陽光発電を増やす仕組みをどのように作っていけばいいのか、一緒に知恵を絞って考えましょう。

(問い合わせ: 090-8239-8259 水川)

吹田市内のルール違反のごみ対策

これまでの経過

私は 2020 年から 2 年間、廃棄物減量等推進審議会の審議委員をしていました。そこへ吹田市民の A さんが傍聴に来ておられました。一般市民の方が審議会の傍聴に来られるとは、かなりごみに関心があるに違いないと思いました。審議会が終わって「アジェンダ 21 すいた」のポスター展を見ておられたので A さんに声をかけました。「審議会を傍聴されて、かなり吹田市のごみ行政に関心がおありですね。」と「大阪ごみを考える会」と「アジェンダ 21 すいた」と会員と書かれた名刺を渡しました。

後日 A さんから連絡があり、「近くに住む B さんが仕事からみの事業系ごみを家庭系ごみの日に捨ててルール違反をしているので、どうしたらよいか悩んでいる。」と相談されました。B さんは他市から持ってきた大型ごみや小型複雑ごみを多量に出し、また可燃ごみの日に不燃物を混ぜて捨てているということです。

A さんはごみ拾いやステーションの清掃、コンテナ等の後片付けを 2018 年から続けておられます。2019 年秋には、大きなお屋敷の庭に置くような竹製の装飾品を集積場付近で発見し、B さんが「職人が持って帰ってきた」と話しているのを聞き、B さんの動きに注目し始めました。B さんは「吹田市は大型ごみをタダで出せる。何でも持って行ってくれる。」と公言もしていました。また、収集業者に何か品物らしいものを渡しているところも目撃しています。

2021 年夏には大型ごみの日に、漁具と思われる、錘のついたポリエステル製の網 4 袋が出され、ごみ出しのルールを守るよう、また事業系のごみを家庭ごみとして捨ててはいけないことを再三、注意もしました。

A さんは 2021 年 6 月に事業課へ何とか解決してほしいと相談に行きましたが、納得のいく回答が得られなかったそうです。その後も毛布多数や布団、かなり大きいソファ、カーペット数枚、大きなベンチなどが数回にわたって集積場に出されました。A さん、B さんのごみ集積場のほかにもワンルームマンションのごみ庫やごみ置き場に分散して出しているのです。ここは戸建て住宅数軒の集積場で、そのような大型ごみが頻繁に出ることは考えられない地域です。

2. その担当課の対応

当会理事長に相談したところ当会が取り組むことになったので、事業課へ実情を説明しに行きました。ステーションに出された事業系ごみと思われる写真を何枚も用意していきましたが、可燃ごみの日に出された金属製のトレイや土以外は、いずれも家庭から大型ごみ等として出される分には何ら問題がないと言われました。

ただ、収集業者に指導と確認をするということだったので、後日、どのように指導をしたのかを聞きました。

- ・可燃ごみのなかに缶・ビンが入っていた場合は置いてくる。
- ・可燃ごみのなかにカーペットや段ボールが入っていた場合は置いてくる。

また、市民から品物等を受け取っている事実はあるか確認したところ、そのような事実はないと言っていたそうです。

その後、事業課は当該地域のパトロールを強化しました。しかし、その後も大型家具を分解して出したり、数か所の集積場に分けて出したりしています。

3. 破碎選別工場の対応

吹田市では可燃物以外のごみは破碎選別工場に集められ、ごみの種類別に処理をします。明らかに事業系とわかるものが入ってきた場合、どうするのかを破碎選別工場に聞きました。その場合は、平場でごみをぶちまけるときに作業員が気づくので写真を撮って記録して事業課へ連絡するそうです。この時、業者のトラックは帰ってしまっていますが、推測の上、業者を特定し事業課が指導します。このリストは閲覧可能とのことで、Aさんと私とで事業課に行き、リストを見せてもらいました。2021年度で事業系は9件ありましたが、2021年にAさんが撮影した写真のものはなく該当しないと判断されたようです。

4. 市議会への陳情

その後、2023年2月市議会において建設環境委員会に陳情書を提出しました。請願は議員の紹介が必要ですが、陳情は議員の紹介を必要とせずに市政についての要望や意見を述べることができます。これまでのごみ集積場での大型ごみ等写真を参考資料に付けて、大型ごみを申し込み制にしてほしいという陳情書を提出しました。委員長が関心を示してくれ、今後、市議会に働きかけをしましょうと言ってくれました。委員長自身のマンションでも不法投棄が横行していて、何らかの対策が必要と思うということでした。警察にも相談に行ってくれ、とにかく写真など記録をとることが大事と言われました。

5. 府下の現状

大型ごみを無料で出せる自治体は大阪府下では43市町村中12市町村だけで、約72%の自治体が大型ごみの有料化を導入しています（平成28年3月大阪府調べ）。そのためか、「引っ越しの際には吹田市に運んで大型ごみの日に出す」人が多いと聞きます。大型ごみをいくつ出しても無料というシステムを変えないと、他市からの持ち込みは防げません。吹田市民の税金がそのようなごみ処理に使われるのは許されることではありません。

6. 陳情書の内容

これまでの経過と現状を述べ、対策は段階別に次の3点が考えられますが、①の申込制から導入することを要望しました。

- ① 【申込制】 大型ごみの収集を有料にしないが、申込制にする。
- ② 【超過量方式】 例えば、年間30枚まで無料シールを配布し、それを超える場合は1点につき500円を徴収する。
- ③ 【定額方式】 申込1件につき、例えば1000円を徴収する。

その後、市議会議員の改選があり、この議員も当選されたので、引き続きこの問題に取り組んでもらえるようお願いして行きます。

次ページに参考写真を掲載します。

（水川 晶子記）



錘のついたポリエステル網



大きいソファ



カーペット数枚



大きいベンチ



鶴見 警告と読める貼り紙



可燃ごみの中の不燃物

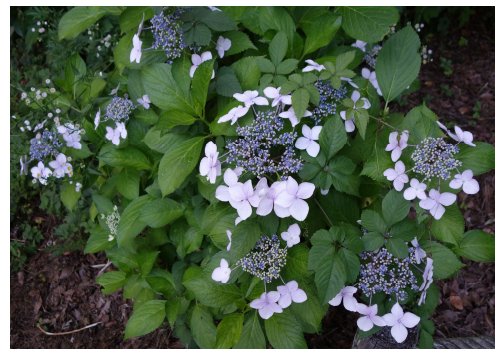
ここ数年、日常生活で温暖化(気候変動)の影響を感じる事が多くなってきました。変動のメカニズムは複雑ですが、人類が排出する最終形の「ごみ」すなわち「温室効果ガス」によって主に引き起こされていることは、もはや疑う余地がありません。にもかかわらず、迫りくる危機になかなか気づけない「茹でガエル」の寓話そのままに、私たちの多くが現実を未だ直視できずにいるように感じます。

ですが、山を歩くと、都会の喧騒からの逃避とは裏腹に、今起こっている現実を感じずにはいられないことが少なからずあります。

金剛山でも年々、春の花々の開花時期が早くなり、紅葉時期は遅れ、完全氷瀑が見られる日数も減り、積雪も少なくなってきています。四季折々の風景を楽しみに何度も金剛山に登られる方々と話をすれば、異口同音に声に出る程の変化です。

春の花の時期を過ぎると、緑も濃くなり蒸し暑い夏がやってきます。登山者も減り、賑やかなのはセミの鳴き声ばかり。夏から秋にかけても多種多様な花々が咲きますが、総じて開花時期は早まり、種類にもよりますが花期も長くなったように感じます。

なかでも目立つのがアジサイです。主に沢や谷のコースで、麓から山頂近くまでいろいろな色や種類のアジサイが比較的長い期間咲き続けます。



寺谷に咲くヤマアジサイ

特に楽しめるのが、私がこの時期アジサイ・ロードと呼ぶ「寺谷コース」。登山の魅力をギュッと凝縮したような初級者レベルのトレイルです。歩き出せば、しばし世間のことを忘れることができます。谷に吹く風は尾根道より涼しく、せせらぎの音に癒され、アジサイだけでなく様々な花を楽しみながら登ることができます。歩く時々によって、聴こえてくるセミの声で季節の移ろいを感じることもできます。



寺谷コースのトレイル

最初はニイニゼミ。6月中旬頃から「ジー」と一日中元気に鳴いています。次はヒグラシでしょうか。「カナカナ」と涼しげな声が6月下旬頃から山中に木霊します。同時期には山頂近くで、大阪では金剛山でしか滅多に聞けないエゾハルゼミが鳴き出します。

西日本の街中では南方系のクマゼミに押されてその数を急激に減らしているアブラゼミも金剛山ではまだまだ元気です。7月下旬にもなると、麓や中腹ではツクツクボウシの鳴き声が聞こえ、頂上付近ではエゾゼミやアカエゾゼミが鳴き出します。

ですが、緯度や標高が高い所にしか生息しないエゾゼミなど北方系のセミが、いつか沈黙してしまうのではないかという不安がよぎります。喧噪さは変わらないかもしれませんが、知らない間に他のセミに取って代わられているかもしれません。その時、否定し難い現実を新たに突きつけられ、人類が茹で上がりつつあることに肝を冷やすことになるのでしょうか。

山に親しみつつも、自然からのメッセージに鈍感にならないよう気を付けて歩きたいと思います。

イスラムと聞くと身構える人があるかもしれない。イスラムについて昔、面白い体験をしたことがあります。

今から30年も前のこと。インドのムンバイ、かつてのボンベイ。飛行機搭乗員のストライキがあり、長時間、待機させられたことがありました。その時、インドの文通友達と話して時間をつぶしていました。

私はその友人にインドの不可思議な光景について質問しました。「ある建物の前で建物に向かって、数十人もの人が整然と端坐して集まっている。あれは何か」と。友人は即座に、「イスラム教徒の経営するホテルの前で、お客が食べ残したものを分けてもらうために待っている。どこのホテルでもモスクでもやっている」という。私は再度質問しました。「たとえば、通りすがりの日本人である私が並んでも、もらえるのか？」と。彼はまた即座に「誰でも、もらえる」という。さらに私は質問。「こういうことを、キリストの教会はしているか？ヒンドゥー教寺院はしているか？」と。彼はキリストの教会で、している所もあるし、していない所もある。ヒンドゥー教寺院は皆無だという。

話は一気に飛んで、今年の3月のNHK72時間ドキュメント。撮影場所はパキスタンの首都、イスラマバード。番組のタイトルは「異国の地のアフガニスタン人」。タリバン政権の支配を逃れて隣国へ命からがら難民となって逃れて来た人々の姿を追っていました。

夜の9時半、通りのナン（南インドのパン）屋さんの前で、小さな子どもと女性がたむろしている。これは夫・父を失った人たち。優しい人がナンを買いに来て、ついでに、この人たちの20人前後の分も買って、喜捨してくれるのを待っているという。喜捨した人は足早に去り、ナンをもらった人々は「有難う」の礼もいわずに、分け合っていた。私が読んだ本のなかでも、そうすることはイスラム教徒の務めであるので、礼を言わないと書かれていた。イスラムの人にとっては、喜捨する方も、それをもらう方も、ごく自然のことのよう。

私が今も驚異をもって見ている事は、イスラム教徒にはラマダン月があって1カ月間、日の出から日没まで断食をすること。このことは良く知られている。しかし、これを行ない続けることは、とても困難なことだ。私が健康のために1食を抜くことを友達に提案すると、だれもが「とんでもない」と反応が返ってきます。しかも、断食を一人や二人の信者ではなく、20億という信者が一斉に行っている。これを行う意味は、「飢えている人の気持ちに近づくため」という。これを1400年にわたって続けてきた。すごい人類の姿だ。

今年のある民放のTVが、ホームレスへの支援活動をすることに驚いて、イスラム教徒の姿を特集していた。私が訪問した神戸元町の日本最古のモスクでも、東日本大震災後、震災地にボランティアで行かれたという。

イスラム教徒の5つの義務の中に、喜捨（ザカート）があり、別に任意の喜捨（サダカ）がある。困った人を助けることを、義務とする宗教。すごいことだ。私はキリスト教も、仏教も好きだ。イスラム教も好きだ。極端な人はどこの世界にもいるが。